

平成30年度 自己評価結果公開シート

学校法人 桃の里学園
認定こども園 桃の里幼稚園

1、本園の教育目標

本園は、変化する社会に適応し、改善していく力の獲得を目指すために、幼児の成長の基礎となる主体的な遊びが十分にできる環境のもと、人格形成の基礎を培い、自ら考え、自ら行動することのできる実践人を、遊びを中心にした集団生活を通して育成する。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

認定こども園としての、遊びを中心とした環境での教育・保育の充実と、支援教育の充実、並びに防災体制の確立。

3、評価項目の達成および取り組み状況

評価項目	取組状況
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に謳われている幼児の主体活動である遊びを中心とした環境を通しての教育の充実を推進する。	土山や園庭の整備を行うことによって、どろんこ遊び・ボディペインティングなど、家庭ではできない大胆な遊びを通して、幼児の主体性・自主性を育む保育を行った。
今年度から始まる認定こども園0・1・2歳児の保育部門の、一体的な保育及び教育。	今年度から始まる認定こども園0・1・2歳児の保育部門は、保育・教育に関する専門性を有する職員が、家庭との緊密な連携の下に利用乳幼児の状況や発達過程をふまえ、保育及び教育を一体的に行った。
教育の質の向上のため、園内研修の充実。	教員の資質向上を目指した各種研修会の一つとして絵画製作専任講師の指導に基づいた毎月1回の絵画製作研修会と、音楽専任講師の指導に基づいた毎月1回の音楽研修会を実施した。
支援教育の充実	統合保育による発達遅滞児・障害児の受け入れと支援教育の

	<p>充実ならびに個別の発達支援指導計画を作成し、それぞれの園児の配慮の仕方について職員全体で把握できるようにした。毎月第3火曜日に、キンダーカウンセラー（認定心理士）を園に招いて、保護者向けに「子育て・発達相談」を行うと同時に、教員の研修・個別相談も実施した。</p>
<p>危機管理マニュアルに基づく防災体制の確立。</p>	<p>今年度新たに作成した危機管理マニュアルに基づき、より現実的な災害（火災・第二寝屋川氾濫・地震）を想定した、避難訓練の充実（月1回）。災害時に備えて、避難車・3人抱きキャリー・拡声器付ラジオを購入、非常用保存食・大人用簡易トイレの備蓄を行った。</p>

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>教育・保育の充実のために、外部の研修会に園長及び教員がのべ28回参加。また全教員出席のもと、毎月1回ずつの、絵画製作と音楽の園内研修を実施。支援教育に関しては、月1回のキンダーカウンセラー（臨床心理士）を園に招いての、保護者向けの「子育て・発達相談」と教員の研修・個別相談を実施。より現実的な災害（火災・第二寝屋川氾濫・地震）を想定した、避難訓練の充実（月1回）。全教職員が、目標を共有し学び合い意見を述べ合うことを通して、理解を深め、教育・保育、支援教育の充実と、防災体制確立の実践に生かすことができた。</p>
--

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
<p>きめ細かい保育・教育と保護者対応</p>	<p>0～5歳の年齢に応じた一人ひとりへの対応、場面に応じた最適な援助、安全や快適などへの配慮が、まだまだ十分とは言えないので教員の研鑽と意識向上を図りたい。</p>
<p>きめ細かい保護者対応</p>	<p>園児の保育・教育の充実には、保護者の理解が必要不可欠だと考える。そのためには、園児の様子や、園での取り組みを具体的に書いた園だより「わんぱくつうしん」を月2回発行するなど、本園への理解を深めてもらえる機会を増やしたい。同時に、担任と保護者の親密な信頼関係をより一層深めるよう電話連絡や対話を増やしたい。</p>

<p>支援教育の更なる充実</p>	<p>支援が必要な子どもについて、キンダーカウンセラー（認定心理士）・理学療法士・作業療法士等専門家の意見を取り入れながら、その子に応じた個別の支援計画の充実を図りたい。</p>
<p>危機管理マニュアルに基づく防犯・防災体制の確立。</p>	<p>今年度新たに作成した危機管理マニュアルに基づき、園児が安心して幼稚園生活が送れるよう、園行事の際の保護者のIDカードの発行を徹底する。防災に関しては、より現実的な災害（火災・第二寝屋川氾濫・地震）を想定した、避難訓練（月1回）のより一層の充実を図る。</p>

6、学校関係者の評価

本年度の重点的に取り組む目標・計画に対し、積極的に取り組み、効果を上げたことが認められる。

7、財務状況

公認会計士監査により、計算書類は、学校法人会計基準に準じて、平成30年度の経営状況および財政状況のすべての重要な点において、適正に運営されていると認められている。